

京都ブライトンホテル

KYOTO BRIGHTON HOTEL

所在地／京都市上京区新町通中立売下ル仕丁町330

建築主／株式会社 長谷工コーポレーション

設計者／株式会社 日建設計

施工者／株式会社 熊谷組

竣 工／1988年 6 月15日

Location／Kyoto City

Owner／Haseko Corporation

Architect／Nikken Sekkei, planners, architects, and engineers

Contractor／Kumagai-Gumi Co., Ltd.

Completion Date／June, 1988



正面外観 Facade. 右: アトリウム right: Atrium.





大宴会場 Banquet hall.

建築概要
敷地面積 9,045.73㎡
建築面積 6,102.30㎡
延床面積 20,778.83㎡
構造 鉄筋コンクリート造・一部鉄骨造
規模 地下1階・地上6階・塔屋1階
工期 1987年5月～1988年6月
仕上げ概要
外部仕上げ
屋根／アスファルト防水押えコンクリート 軒先／銅板一文字葺き 外壁／磁器タイル(45角),一部ラス

ター仕様 1階:砂岩割肌 建具／アルミU-BE
1階・風除部:ステンレス鏡面仕上げ
内部仕上げ
[ロビー] 床・壁／大理石 天井／岩綿吸音板
[アトリウムロビー] 床／大理石 壁／3階まで大理石 各階腰壁クロス 天井／ケイカル板クロス, 合わせガラス [アトリウムラウンジ] 床／カーペット, 一部大理石 壁／プレコンルーバー, 吹付タイル, ダークミラー 天井／梁型ダークミラー [宴会場] 床／カーペット 壁／ケイカル板クロス 天井／石膏ボード⑦12mm+12mmクロス, リブ付岩綿吸音

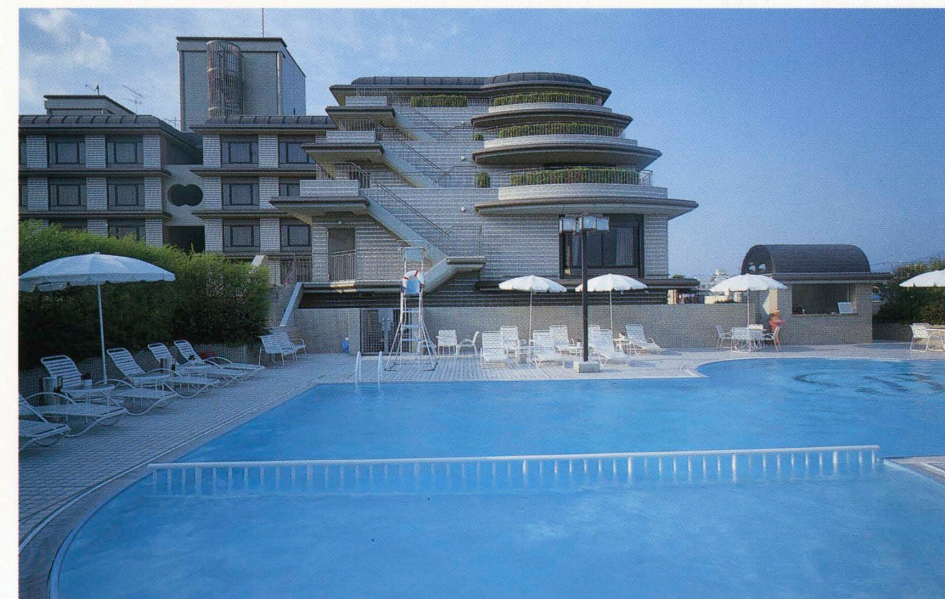
板 [客室] 床／カーペット 壁／クロス 天井／石膏ボード⑦12mmクロス
設備概要
空調 方式／冷凍機210RT×2台, 40RT×2台
ボイラー50万kcal/h×2台
衛生 給水／受水層130㎡+50㎡ 給湯／中央給湯方式, 貯湯槽16㎡ 排水／分流方式 客室: 合流方式
防災 消火／屋内消火栓, スプリンクラー, 泡消火, 連結送水管 排煙／機械排煙



洋食レストラン Western style restaurant.



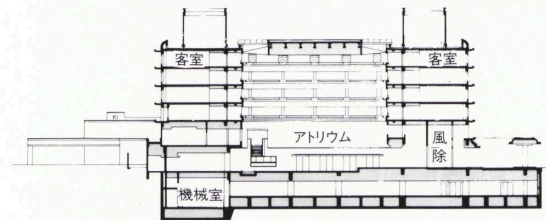
和食レストラン Japanese restaurant.



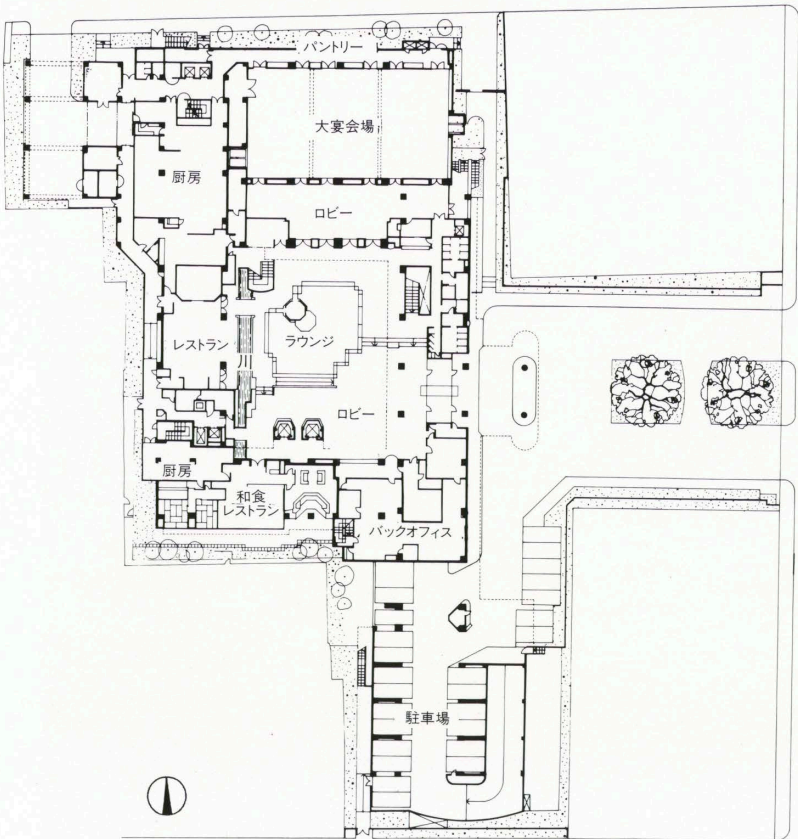
プール Pool.



ブライトン・スイート・ルーム Brighton sweet room.

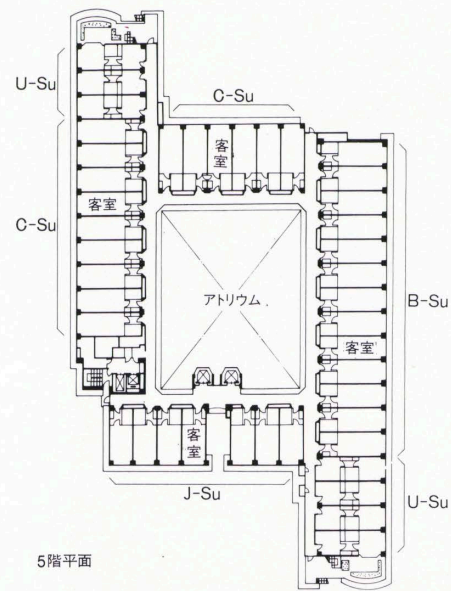


断面図 縮尺1/1,200

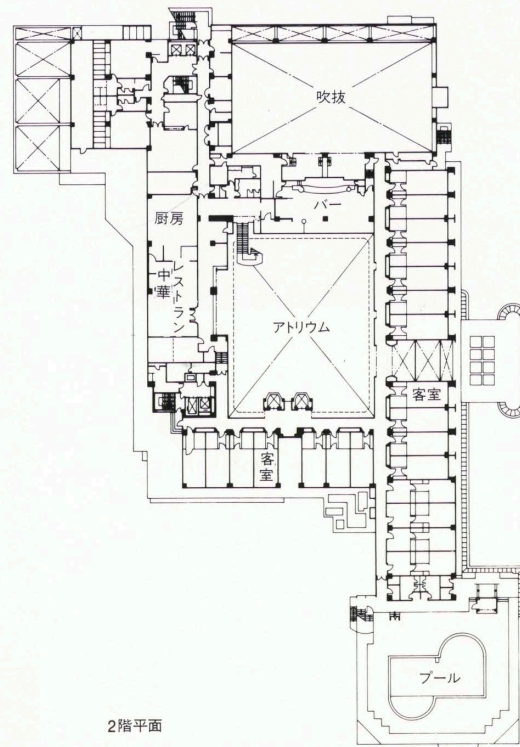


配置・1階平面 縮尺1/1,200

MEMO		BED
U-Su	アーバン・スイート・ルーム	2
J-Su	ジュニア・スイート・ルーム	1
B-Su	ブライトン・スイート・ルーム	2
S-Su	セミ・カジュアル・スイート・ルーム	3
C-Su	カジュアル・スイート・ルーム	4



5階平面



2階平面

嶋田勝次 KATSUJI SHIMADA
松村慶三 KEIZO MATSUMURA
舟橋 巖 IWAO FUNABASHI

京都御所のすぐ西側の市街地の中心部にあって、しかし閑静な敷地となっている環境と立地に新しいホテルが誕生した。もと洋裁学校の跡地で、北側に小学校があり、京都府庁舎も近い。南北の新町通りからのアプローチを入ると、けやきの木に迎えられてずっと奥に引込んだところに、この建築が姿を現してくる。

京都の伝統的気品と英国の洗練とを合わせ持つように検討が加えられた結果であろうと思われるが、とにかく極力控えめなおちつきをやわらかく出すようにつとめられており、その上アットホームな安らぎにあふれている。「ブライトン」というネーミングの音からかもし出される雰囲気には、上品なひびきがあるし、実際ロンドン南部の港町との連携も考えられて、そのイメージターゲットからの展開も考えられた由である。このホテルのオープンには当市の女性市長さんがかけつけられたのは、喜ばしいことであった。

この新しいホテルから日本における新たな方向を打ち立てるものとして、巨大ホテルにはない品格の定着が見られるのがよい。

京都の町並みからのアプローチを入ると、真正面の玄関ホールがもうホテル全体の中心部分となっている6階吹抜けのアトリウム空間であり、このアトリウム空間の回り全体が客室部分となっている。

この宿泊部分に空間のゆとりを確保することにつとめているし、グループ宿泊の可能性にも配慮している。また、廊下幅員も広くとって、バランスのとれた感覚も現れていて、しっとりとしたホテルライフの提供という筋を一貫して通していることが判る。

建築デザインについては、直線・真四角・水平線を基調とした安定感に支えられていて、ずっと長く昔からここに存在したような感じが感じられる。それが京都の伝統ある優雅さまで示す結果となっている。

華やかではないが、じっくり味わえるよさがゆっくり伝わってくるような、古くて新しいホテル建築を熟成してきたように思えてくるのである。

The site, though in the central part of town to the east of the Kyoto Imperial Palace, is in a quiet district. A Western-style sewing school formerly occupied the land, on the north of which is a primary school. Kyoto City Hall is nearby. Approached from a north-south road, the hotel stands well inward on the site beyond a zelkova tree and produces a gentle, restrained mood and a relaxed, at-home comfort combining traditional Kyoto grace and English refinement. The name Brighton derives from that of the famous seaside resort town south of London. The owners were delighted to greet the lady mayor of Brighton at the opening.

It seems likely that the Kyoto Brighton will introduce a new kind of dignity, not to be found in large establishments, to the Japanese hotel world.

The main entrance hall, in the center of the overall plan, assumes the form of an atrium six stories high surrounded by corridors on which guest rooms open. The rooms are spacious, and consideration has been given to group lodging. The wide corridors preserve a sense of balance and, like everything else, contribute to a calm, quiet way of hotel living.

Straight lines, squares, and horizontality, the keynotes of the design, generate the feeling of stability that makes the building seem to be as much a part of traditional Kyoto elegance as if it had occupied its present location for years. Not at all flashy, seeming old, though it is actually new, the Kyoto Brighton exudes a maturity that warrants slow, deliberate savoring.